

ユーロドル相場 これからの展望

～ギャン理論から見た通貨～

ギャンアナリスト 中原 駿

【4.3 年サイクルと 26 カ月サイクル】

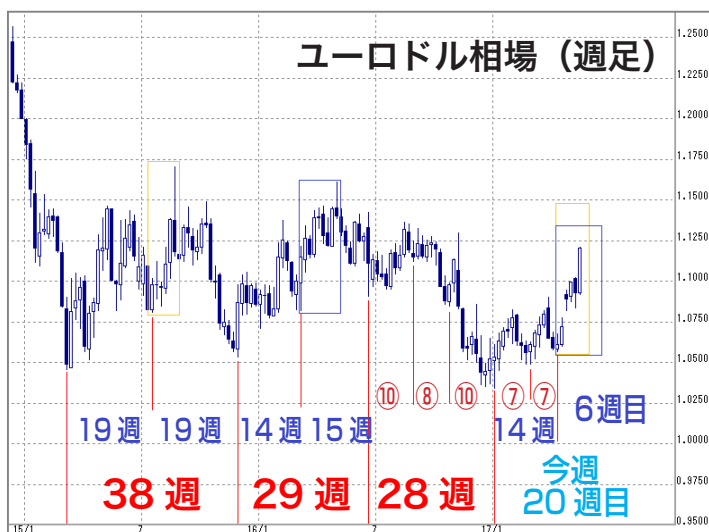
サイクル分析の観点からユーロドル相場には4.3年サイクルが存在する。このサイクルは17ヶ月サイクルの2倍である33ヶ月サイクルと26ヶ月サイクルで形成されている。その意味では、混合型かつ複雑であるためトレードしやすい通貨ではない。

2010年6月からの4.3年サイクルは2つの26カ月サイクルからなり、第1-26カ月サイクルは25カ月で完了した。第2-26カ月サイクルは32カ月で2015年3月に完了した。ここを起点としたの新4.3年及び第1-26カ月サイクルは22カ月後の2017年1月3日の1.0341でボトムアウトした。このサイクルのレンジは通常22～30カ月なので日柄要件はクリアしている。

従って、今月は第2-26 カ月サイクルの4 カ月目に入っており、サイクル的には、現在上昇局面に入っている。過去の第2サイクルの上昇期間は起点から13～22か月であり、相当期間上昇する。また想定される値幅は0.1950～0.2815 とかなり雄大。加えて現行相場は2000年10月を起点とした長期16年サイクルが今年で17年目に入っており、上記の1月安値で長期サイクルボトムをつけたとなると、更に雄大な相場となろう。

26カ月サイクルは、3つの9か月サイクル（レンジ7～11カ月）で構成される事が多く、通常第3位相以外では歪まない。現在は第1位相なので、通常の日柄内に収まるだろう。

9カ月サイクルは、厳密には3つの35週サイクル(29～41週)で構成される。トレードの基本(プライマリー)となるプライマリーサイクル(PC)はこの35週サイクルの半分、即ち17週(14～20)と筆者は定義している。少なくとも、上記1月3日の安値はPCボトム、及び9か月サイクルボトムであっただろう。



【プライマリーサイクル】

35 週サイクルは、通常 PC 2 つで構成されるか、より細かく 10 週サイクル（9～11 週）3 つで構成されるかのどちらかになると見ているが、現行 35 週サイクルは通常パターンようだ。1 つ目の PC は 4 月 10 日にボトムを形成している。1～4 月の日柄は 7 週のハーフ PC できれいに 2 つに分かれている。

現行 P C は 4 月 10 日から上昇局面に入っているが、過去の P C をみると、上昇は 5 ～ 8 週、値幅は 800 ～ 900 ポイントといったところ。今回に当てはめると、相場は日柄的に最大 6 月第 2 週（6 月 5 日の週）まで、値幅的に 1.1363 ～ 1.1473 では上昇する可能性がある。故に相場はまだ日柄、値幅ともに伸びしろがある。

【季節性】

2016 年は前半ユーロ高、後半ユーロ安と季節性の逆となった。

通常は年前半ユーロ安、後半ユーロ高。80年以降に限っても、80年は1～4月まで、81年は3～8月まで、82年は前年10月から4月まで、83年も1～8月まで、いずれもドルが力強い上昇を見せている。

90年代においても、91年は2月安値、7月高値であり、92年は1～3月まで上昇。95年も3月から上昇をスタートしている。

一般的に、前年 10 月から 3 月まではドルの底値圏（ユーロは高値圏）となるケースが多く、逆に 7 月前後はドルのトップとなる季節性が観測される。実際、2012 年も 2 月末までドル安、その後、7 月第 4 週までは対ユーロでドル高が継続し、その後は緩やかなユーロ高だった。

7月前後がドルトップ(ユーロボトム)となった年は、81年8月、83年8月、87年8月、88年8月、89年6月、90年6月、91年7月、93年7月、95年9月、96年5月、97年8月、2001年7月、2003年8月、2004年8月、2010年7月、2012年7月、2013年7月(正確には4月だがほぼダブルボトムとみなしてよい)である。

80年以降の30年において17回も7月前後が高値をつける時間帯となっている。これにダウンサイクルが強く、3月前後に高値をつけたものが80年、86年、90年、92年、94年、98年、12年と7回観察される事から、年前半に高値をつける傾向は82%ということがいえる。

逆に夏場から冬にかけて伝統的にドルは弱い（ユーロは強い）傾向が見て取れる。年後半にドルが反騰したのは80年、83年、84年、92年、93年、99年、2000年、2005年と8回を数えるのみである。もっとも2000年は10月から大きくユーロが反騰しているのでドルが一時的に上がった印象はないし、2005年の下落は2006年の大反騰を招いている。

2017 年は年初から反転したことを考えると、2016 年パターンの再現かもしれないが、実は年間を通じて上昇するのではないかと考えている。

【結論】

長期サイクルの結論を出すのは難しいが、恐らく2015年3月から新4.3年サイクルに突入しているとするのが素直であろう。

スタートの価格は割れているので、このサイクルは弱気である可能性が高い。2つの26か月と33か月サイクルを合成すると、第一サイクルはどうやら26か月サイクルのようだ。

前 26 カ月サイクルは 22 カ月で完了、現在新サイクル入りしており、このサイクルは恐らく 6 カ月にわたる上昇の可能性があるので、押しは浅くその後大幅上昇という、押し目買いが有効である。今回の PC でもまだトップアウトしている可能性は低く、少なくとも 6 月第 1 週、1.1400 台が上値目標値になる。

ザ・テクニカル

ショック安は
買い向かう

先週はトランプ米大統領のロシアへの機密情報漏えい疑惑が弾劾されるのではないかと臆測が浮上。ダウ平均が急落し、日経平均もギャップダウン、一時 19,500 円割れまで下落した。

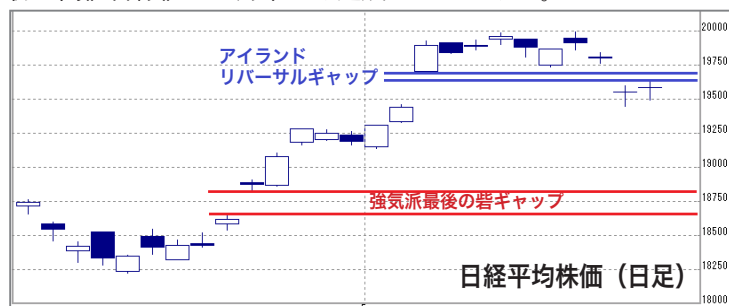
日経平均はここでアイランドリバーサルギャップが発生。トップフォーメーションが形成された。材料としてはインパクトがあったが、一時的なショック安と観ている。近々このギャップ返しが入れば、それが証明されよう。

丁度、日経平均のサイクルでは 4～6 週のサブサイクルがボトムを付ける時間帯に入っていた事も確か。

この件に関して先週のコメント「ただ今の流れが継続される場合、19,600 円前後までの調整で終了し、マドを埋めない可能性がある。それはまだ 13～19 週プライマリーサイクルの 4 週目であるからだ。細かい動きでは 4～6 週のサブサイクルが入るとすれば、先週の高値から調整に入り、今週から来週にかけてボトムを付ける。いずれにしてもまだまだ買える相場。先週のタイトル“全ての下げを買い向かえ”は依然として有効」。5 月初旬の 2 つ目のマドは下ヒゲで埋めたが、引け値では維持

された形。サポートは依然として有効。絶好の押し目買い好機となった。このマドについては先週次の通りコメント「今回の 2 つ目のギャップは 19,464～19,705。このマドを埋める押し目が入ればまた買い場になろう」。買いは 1 つ目のマドを埋めて引けるまでは維持したい。それは先週述べた如く強気方針を貫く。即ち「現段階での高値目標値は 21,112±340。深押しが入っても、18,840～18,648 の最初のギャップアップを週の引け値で埋めない限り強気姿勢を貫く」。

アイランドリバーサルのギャップを今週中にもギャップ返しで反発して埋めてくれば、2 万円は簡単に達成されるだろう。最初の高値目標値は 6 月中にも達成されるとみる。



今週の押し

じっくりユーロ買い

ユーロが買われたというよりも、ドルが売られたと考えた方がよい。米ドル指数の日足を見ると、年初からの下げは高値安値共切り下がり、前週までウェッジパターンで急反発を示唆していたが、先週はもう一段下げて 98 ポイント割れ。大統領選のあった昨年 11 月頭の水準まで売られた。これで相場は戻して 98～98.5 が上値抵抗の戻り売り基調になったと見る。

ユーロドルは急伸。前週売り推奨の当欄は先週こう記述“…重要なのは、11 日安値と先述の G A P 上限 (1.0820)、昨年 3 月の安値水準、23 日移動平均の値位置が非常に近接していた事。このエリアは目下非常に強力な下値サポートである。今週もこのエリアが維持されるようなら、恐らく今週再度 8 日の高値を試すか上回る展開が想定される。従って、先週推奨した短期の売りは利食いドテン。4 月の G A P を割り込まない限り、長期慎重派も目先は試し買いのポイントであると考え。引け値で昨年 5 月と 11 月の高値に起因する下降トレンドラインを

超えるようなら追撃買いしたい。1.1100 が当面の目標か。…恐らく昨年から下降基調は、1 月 3 日の安値 1.0341 をもって終了。なだらかな強気に転換したと思われる。この 1 月安値を割り込まない限り、慎重派は資金管理を徹底した上で全ての修正安ポイントは買い拾い場と考えた方がよいと筆者は考える”。

今週の巻頭記事でもユーロドルの上昇を予測していたが、先週の相場で 2016 年 5 月と 11 月の高値を結んだラインを突破。このラインは現在強力な下値支持線となっており、目先の買われ過ぎから反落しても 1.10～1.09 付近が上記で指摘した“買い拾い場”になろう。その手前のチャネルライン上限で下げ止まる可能性も否定出来ない。過去の 15 日スローストキャスティクスをみると週初はまだ上昇している事が多い。リスク許容度に不安があるなら、ポジションの 3 分の 1 程度利食いしておく。

目先の上昇余地だが、4 月からの上げ波動の形状から、今週は 1.1300 付近までの戻りが予測できる。これ以外に、先述の昨年 5 月高値 (1.1615) から今年 1 月 3 日安値 (1.0341) までの下げ幅の黄金分割から算出される最大限の修正目標は 1.1429±0.0128 となる。じっくりとこの買いトレンドと向き合いたい。

今週の主な予定・経済統計

5 月 22 日 (月)

- ・各米地区連銀総裁講演
- ・ユーロ圏財務相会合

5 月 23 日 (火)

- ・米 2 年債入札 (260 億ドル)
- ・4 月の米新築住宅販売件数
- ・各米地区連銀総裁講演
- ・EU 財務相理事会
- ・米予算教書発表、米下院歳入委員会、税制改革公聴会

5 月 24 日 (水)

- ・米 5 年債入札 (340 億ドル)
- ・4 月の米中古住宅販売件数 (567 万戸の予想、前月は 571 万戸)
- ・米 F O M C 議事録公表 (5 月 2～3 日開催分)
- ・ドラギ ECB 総裁、講演
- ・トランプ米大統領、ローマ法王、会談

5 月 25 日 (木)

- ・米新規失業保険申請件数 (前週は 27.8 万件)
- ・N A T O 首脳会議
- ・O P E C 首脳会議

5 月 26 日 (金) … 新月

- ・米 G D P 改定値、個人消費 (第 1 四半期)
- ・G 7 首脳会議 (27 日まで)
- ・米 7 年債入札 (280 億ドル：総額で 880 億ドル)
- ・4 月の米耐久財受注 (前月比 1.8% 減の予想、前月は 0.9% 増)
- ・5 月のミシガン大学消費者信頼感指数 (97.5 の予想)



今週の相場風林語録

九仞の功を一簣に欠く

せっかく努力して積み上げてきたものを、(山をつくり九仞の高さに達しようとしても) あと、カゴ一杯で終わる土運びをやめてしまつてはそれまでの功は無になる (仞は八尺、2.4 メートル)。

今週の**九星★波動**

南雲 紫蘭

我慢がベターか

なんと微温的な相場となっています。「有事のリスク」は終わったものと想定されていましたが、北朝鮮の何とも間の抜けたロケット発射と、韓国の新大統領に向けた疑惑の目と、極東に関する米韓同盟の行方など、日本をめぐる環境は必ずしも良くはありません。

逆に考えると、大幅な円安を招いても仕方ない「有事のリスク」が、何故か円買いになるのが厳しいところ。

もちろん背後には韓国ウォンが大幅下落するのではないかと、という懸念があるのでしょうか。実際、韓国は90年代後半に事実上の破たんを招いていることから、迷走する政治状況が致命傷になる可能性があることは一応念頭に置いて置いたほうがいいでしょう。そして、アジア通貨危機が起こった伝播の状況はさほど変わっていないとも…。

さて、九星高下伝は月盤《五黄土星》も後半に入っています。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (395)

中原 駿

上野が最も信頼し、そして時間が見えない証拠は、長短金利の逆転であった。

上野は、60年、いや、歴史に残っているあらゆる米国金利の歴史を詳細に研究した。

そして、長短金利、それも当時ベンチマークとなっていた30年債と2年金利が逆転すれば、6カ月以内に必ず短期金利が大幅に下落することを掴んでいた。

しかし、歴史上の金利の反転は、必ずしも長短金利逆転がセットされていたわけではなかった。長期金利を上抜ける前に、短期金利が一気に下がってしまうこともあった。

そのパターンも一様ではなかった。通常短期金利が大幅上昇し、ついには長期期待インフレを超えてしまうことによってお

第六感の ショック安に買い向かえ



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

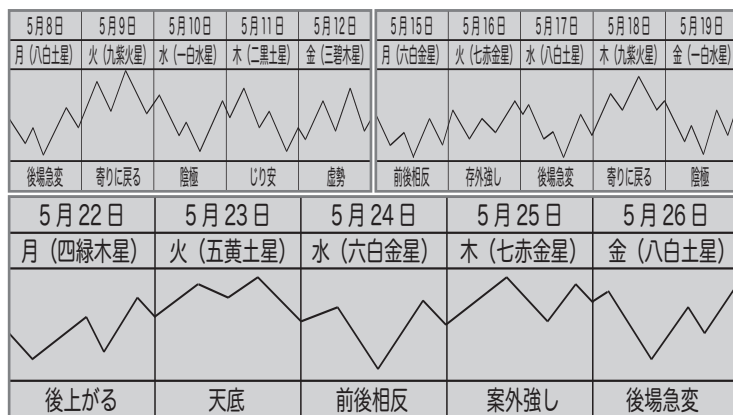
ユーロ最強は変わらず

最近毎週の如く、政治イベントや突発的な外部要因、地政学的リスクなどの発生で金融市場のボラティリティは上昇している。先週は14日に北朝鮮のミサイル発射実験で、緊急安保理が開かれ、世の中が騒々しくなっている最中、トランプ米大統領のロシアゲート疑惑が報じられ、ダウ平均が急落、ドル売りが急加速して、ドル円相場は17日から18日かけ3円以上急落、ユーロドルは1.09台から1.12台へと約300ポイント上昇し、週間棒は陽の丸坊主線が出現。ドルは最弱通貨となったが、先週のドルの下げはショック安のようなもので、18日以降は再び円はドルやユーロに対して売られている。

ユーロドル相場に関しては先週のコメント「4月20～24日のギャップアップライン(1.0737～1.0820)がサポートになろう。週の引け値でこのマドを埋めるまでは強気を維持し押し目買いに徹したい。次の上値目標値はトランプショックで付けた昨年11月9日の高値1.1299前後になる」。ユーロドルは2015年、16年の底練りレクタングルの上値1.16～1.17が強い抵抗。上抜けば長期の上昇トレンド入りを確認する。その前に週足引け値で1.15を上抜けはそのトリガーになろう。引き続きユーロドル相場は長期で買いを支持する。ただ1.15近辺では一部利食いをしておきたい。阻まれるとレクタングル継続の可能性が残る。

ドル円相場については先週のコメント「一方、ドル円は4月

日経平均、米国株、ドル円、ユーロドルともに大幅上昇した後の調整は免れないはずで、トレンドが変わらないのであれば、6月初旬での新月盤《四緑木星》入りを待つのが良策かも知れません。それまでは、如何にも買いたくとも、我慢するのがベターと存じます。



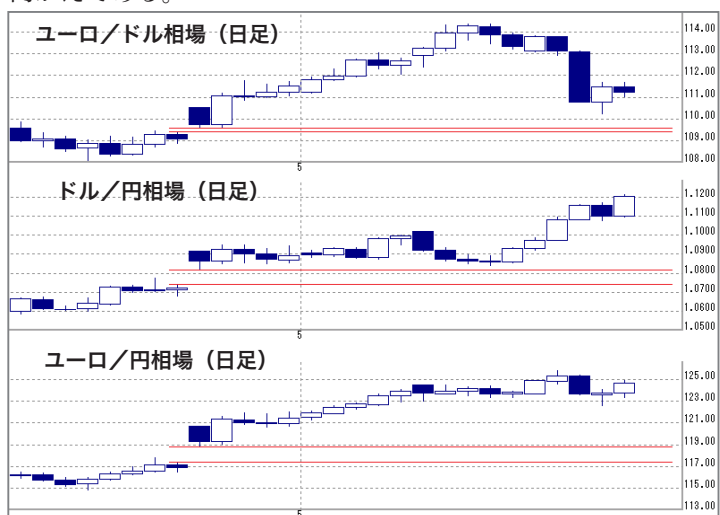
こののが通常のパターンであるが、長期期待インフレが全然上昇しないうちに、短期金利が一気に下げることによっておこることもあった。

あるいは短期金利がとどまっているのに、長期期待インフレが大幅に下落することもあった。例えば、石油など商品が上昇基調であった新興国がマーケットを席捲していた時代は長期期待インフレが高く、結果長期金利を大幅に上回ることは難しかった。逆に石油をはじめとするコモディティが下落基調となり、長期期待インフレが大幅に低く維持されると、短期金利はあたかもキャップが出来てしまったようになり、賃金格差が固定化されてくると、中間層の所得上昇によるコストアップインフレがほとんど期待できなくなってしまう。

2009年以降の新しい状況は、そうした長期期待インフレが大きく変化する時代であったが、上野の時代はまだ、そうした新興国の状況が、米国金利に大きな影響を与える時代ではなかった。

からの上昇過程では先週、一旦高値を付けているとすれば上昇幅の23.6～38.2%訂正(112.86～111.96)が買い場になると見る。ストップは110円割れの引け値に設定。ドルのショック安で下値をオーバーしたがなんとか110円台は維持している。今週前半はまだショック安の余韻が残されるかもしれないが、今週以降、健全な上昇が再開されると見る。112円以上で引けてくればその確認となる。その前に4月21～24日の週間ギャップ109.40～55を引け値で埋められると厳しくなる。

買いのストップは日足引け値でこのマド埋めに設定しておきたい。もし110円割れがあっても、週の引け値で110円以上に戻れば強力な強気トリガーになる。要は、ショック安に買い向かえである。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第40回】CRB指数のサイクルについて（3）

通常、サイクルはサブサイクルによって2、3分割されます。CRB指数の8年サイクルは4年サイクル（40～56カ月）で2分割されるか、32カ月サイクル（28～36カ月）で3分割。「迷った時は数える」のが基本なので、実際に数えてみました。

2006年11月から2009年2月までは27カ月。ここから2012年6月まで40カ月。更にそこから2016年1月までは43カ月でした。09年2月は8年サイクルボトムであったので、この安値を挟んで16年サイクルの前半は3位相、後半は2位相パターンで8年サイクルが構成されていました。つまり、サイクルは必ずしも前のパターンを踏襲する訳ではないという事。日柄を“まず数えてから考える”というスタンスは大切です。

2009年2月から更に細かくサイクルを数えてみると、どうやら4年サイクルは3つの16カ月サイクル（13～19カ月）で構成されているものと考えられます。サイクルの最終位相は

しばしば歪みが生じて短縮か延長しますので3つ目の16カ月サイクルがそれぞれ短縮したと考えると合点がいきます。

2016年1月安値から起算すると、5月は16カ月目。しかもこの時、相場は昨年来の安値を更新しました。したがって、現行相場も16カ月サイクルが有効であれば、日柄的に現在は第1位相がボトム形成場面であると同時に、第2位相の天井に向けた上昇前夜という事になります。



土星・天王星ライン（120度）の影響もあったのかもしれない。ライン自体が相場のピークと相関性がある。

逆にユーロドル、NY金、そしてNY原油は週末にかけて上昇した。直近の天体位相をエフェメリスで見ると、今週相場の転換ポイントになりそうなポイントは25～26日の新月（太陽と月のコンジャンクション）くらいしかなくインパクトは弱い。

ここから先、何か相場に大きな影響を与えそうな①の場面は8月5日（日本時間）の木星・冥王星スクエア（90度）程度。それまでは恐らく、このスクエアも含めた主要天体位相と、金星や水星、火星や太陽が0度、90度、120度、180の関係になる「トランスレーション」が出現する場面に注目する必要がある。

また②の場面は6月4日（日本時間5日）に火星が、同月6日に金星がサインチェンジする。またその3日後の6月9日に木星逆行開始。つまり②と③の時間帯が6月第2週に集中する。従って先週末からの流れが今週反転、加速どちらに進んでも、次の節目になるポイントは6月第2週になるのではないかな。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアstroロジー info

5月22日（月）	株式に下げ圧力、前後営業日で転換示唆
5月23日（火）	ロンドン市場からの動きに注意
5月24日（水）	嵐の前の静けさ
5月25日（木）	前後3日テロ、交通機関事故警戒
5月26日（金）	中途半端な上昇
5月27日（土）	現象は知らせである
5月28日（日）	材料無しで大きく動く相場は注意

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日揮香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円（税込・送料別）

2017年は相場の節目か？

只今絶賛発売中！

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問合わせ：投資日報出版（株） <http://www.toushinippou.co.jp/>
お申込みは：投資日報出版（株）
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11 GRANDE 人形町 6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444

高く仕入れて安値で投げる投資家から 脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例
で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望
銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー
代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円（税込み）